

令和3年度在宅医療 関連講師人材養成事業 事例集

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

令和4年3月

好事例・先進事例

- 事例① オンラインでのグループワークを取り入れた多職種向け研修会の開催
～千葉県銚子市の事例より～
- 事例② 多職種向け研修会の開催
～東京都港区の事例より～
- 事例③ 県全域を開催エリアとしたハイブリッド型研修会の開催
～埼玉県川越市の事例より～

事例① オンラインでのグループワークを取り入れた
多職種向け研修会の開催
～千葉県銚子市の事例より～

研修会名 : 訪問診療を使いながら、在宅で生活するには

実施主体 : 行政 (市区町村)

開催エリア : 千葉県銚子市

プログラム内容 : 在宅医療の周知・啓発、在宅医療連携
(コロナ禍での地域連携の在り方を含む)
〔具体的な内容〕 往診と訪問診療の違い、歯科医師や介護職との連携の必要性など

対象者 : 医師; 歯科医師、看護師等、薬剤師、管理栄養士・栄養士、歯科衛生士、リハビリテーション専門職、
介護支援専門員 (ケアマネジャー)、介護スタッフ、行政職、その他の在宅医療に関わる職種

参加者数 : 41～60名

開催方法 : オンライン (Web) 研修

財源 : 市区町村の事業費、所属する機関の事業費

実施主体の役割

- ①企画
- ②会場や講師手配、物品準備等の運営

受講者が担った役割

- ①企画・運営
- ②当日の講師、シンポジスト等

研修会の開催を可能にした要因

- ①行政・関係機関の理解が得られた
 - ②在宅医療関連講師人材養成事業研修会で学んだことを活かせた
- **いずれも、当事業研修会の受講の効果**

研修会を企画・開催するための工夫等

研修会で体験した、Zoomのブレイクアウトルームの機能を活用して、各グループごとに症例提示をしてもらい事例の検討も同時に行った。

研修会を企画・開催するための課題等

オンラインでの研修会等の開催の際のテクニカルの部分についての習得について。今回は設定等に不慣れだったため、事前に何度もオンラインで練習会を行った。

事例② 多職種向け研修会の開催
～東京都港区の事例より～

研修会名 : 地域包括ケア研修会

実施主体 : 行政 (市区町村)

開催エリア : 東京都港区

プログラム内容 : 在宅医療の周知・啓発、在宅医療連携、
看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP (人生会議) 等
〔具体的な内容〕 高齢者のポリファーマシーを考える

対象者 : 医師; 歯科医師、看護師等、薬剤師、管理栄養士・栄養士、歯科衛生士、リハビリテーション専門職、
介護支援専門員 (ケアマネジャー)、介護スタッフ、行政職、その他の在宅医療に関わる職種

参加者数 : 151名以上

開催方法 : オンライン (Web) 研修

財源 : 市区町村の事業費、所属する機関の事業費

実施主体の役割

- ①企画
- ②会場や講師手配、物品準備等の運営

受講者が担った役割

- ①企画・運営

研修会の開催を可能にした要因

- ①行政・関係機関の理解が得られた
- ②行政より経済的支援を受けることができた
- ③会場利用について、講師の所属機関で低額で提供してもらえた

研修会を企画・開催するための工夫等

開催方法について、コロナ禍のためオンラインでの研修会開催を選択したが、結果的には、むしろリアル対面式で開催していた頃よりも参加者が増えた。

研修会を企画・開催するための課題等

オンラインでの研修会を開催するためには専門の業者に運営を委託しなければならないため集合研修会に比べて費用がかかる。またオンラインでの研修会では、顔の見える連携には結びつかない。

事例③ 県全域を開催エリアとしたハイブリッド型研修会の開催 ～埼玉県川越市の事例より～

研修会名：川越市医師会令和3年度在宅緩和ケア講演会

実施主体：地区医師会

開催エリア：埼玉県全域

プログラム内容：在宅医療の周知・啓発、在宅医療連携、
看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP（人生会議）等
〔具体的な内容〕・教育講演『もっと早く家に帰れたら～より早期からの連携の必要～』
・特別講演『オピオイドの使い方』

対象者：医師、看護師等、薬剤師、リハビリテーション専門職、
介護支援専門員（ケアマネジャー）、行政職;その他の在宅医療に関わる職種

参加者数：61～80名

開催方法：対面（集合）とオンライン（Web）の混合研修

財源：都道府県の事業費（在宅緩和ケア地域連携構築事業）

実施主体の役割

- ①企画
- ②会場や講師手配、物品準備等の運営
- ③訪問看護ステーション／居宅支援事務所等への周知

受講者が担った役割

- ①企画・運営
- ②講師・シンポジスト

研修会の開催を可能にした要因

- ①行政・関係機関の理解が得られた。
- ②在宅医療関連講師人材養成事業研修会で学んだことを活かして動くことができた
→ **いずれも、当事業研修会の受講の効果**
- ③経済的支援を受けることができた。（県の事業費）

研修会を企画・開催するための工夫等

広く連携を進めるため、医師会だけでなくメディカル、特に訪問看護ステーション、居宅支援事務所、ケアマネジャーに声かけを行った。結果として薬剤師、看護師などの参加を多く得ることができた。

研修会を企画・開催するための課題等

- ①地域の医師の参加がまだまだ少ない。
- ②在宅での緩和ケアを進めていくための人材の育成としてケアマネジャーを対象としたがんマネジメントに関する講習を推進していく必要があると考える。